

片山 皓心 (勝田一中 - 日立一高 - 桐蔭横浜大 - Honda - 横浜DeNAベイスターズ)

日立一高は、選手が主体的に考えてメニューを組み練習しています。その経験があったからこそいざ大学に入っても迷わず自分に必要な練習、トレーニングを行うことができました。高校時代に全く結果を出すことが出来なかった自分がここまでやってこれたのは間違いなく日立一高でやってきた練習、考え方の意図を理解できたからだと思っています。

日立一高での練習、トレーニングは全国でも誇れるものだと思います。日立一高野球部を外からみて私が思ったので保証できます。その練習の意図がわかってやれていれば甲子園に出て勝つことができます！意図を理解して練習している高校生など、ほとんどいません。

勝つこと、野球の難しさ、本当の楽しさを体験できるのは間違いなく日立一高野球部だけだと思います。



清水 大海 (豊浦中 - 日立一高 - 筑波大 - 日立製作所)

周りの人は、県立進学校で甲子園なんて目指せるのかと思うかもしれませんが、私は本気で甲子園を目指していましたし、行けるとしていました。

その理由として、指導レベルの高さがあると思います。一高の指導は高いレベルにあったと大学に入ってから特に感じました。技術やトレーニング、体のケア、選手としてレベルアップしていくために必要なことを全て学びました。実際、大学に入ってから、継続していることがたくさんあり、大学に通用する野球を学べる高校だったと思います。

高いレベルの指導のため、完璧に理解し練習するまで時間がかかるかもしれません。しかし、それを理解して練習できた時は、選手個人としてもチームとしても爆発的に成長できる、その可能性にあふれた高校だったと私は思っています。

甲子園を狙えるだけの環境が整っていることは保証できます。その環境を選手がどれだけ活かすかだと思います。日立一高で本気で甲子園を目指しましょう！

※首都大学野球リーグ「ベストナイン」受賞 (2020秋・2022秋)



私は、小学生の時に日立一高の野球教室に参加してから、日立一高で野球がしたいと強い思いを持ちました。その思いをモチベーションにして、最後まで諦めずに受験を乗り越えることができました。

一番大切なことは「日立一高に入りたい！」という強い気持ちです。私たちと同じユニホームを着て、一緒に甲子園を目指しましょう！



堀田 圭一郎

(1年:磯原中
・茨城シニア)



「本気」で野球と勉強に取り組めて、自分に合った環境だと思ったのが日立一高でした。「本気」で取り組むために、学校の近くに引っ越すことにしました。一人一人が主体的で自分から動いており、良いところは全員で称賛し、悪かったところは全員で話し合い、意見を共有します。

私は、この恵まれた環境で「本気」で甲子園を目指し、人間力もつけていきたいと思っています。最高の環境である日立一高野球部で甲子園を目指しましょう！

小林 龍星

(1年:里美中
・常陸太田シニア)